

平成28年度

# 学校経営方針

京都市立紫明小学校

## 1 学校教育目標

育てよう 子どもの思い・思いやり

### めざす子ども像

○考えよう自分で 伝えよう言葉で 受けとめよう相手を

### めざす教職員像

- 子どもに情熱・愛情をもって，活動する
- 子どもから信頼され模範となる
- 人権感覚を磨き，ともに高め合う
- 家庭・地域と連携を図り協働する

### めざす学校像

- 教職員が力を合わせ，一人一人の子どもを徹底的に大切にする学校
- 子どもたちが楽しく学び合い，夢に向かって自分の力が発揮できる学校
- 子ども・教職員・地域が大好きな学校

## 2 学校教育の柱 ～ 生きる力を育む ～

### (1) 「確かな学力」の育成に向けて

#### ①一人一人の子どもの学力を最大限に伸ばす指導の充実

- ・学習活動の基本となる姿勢（学びの約束やルール）を確実に身に付け，意欲的に学ぶ集団づくり
- ・ジョイントプログラム等学力調査の分析，授業や取組の改善
- ・わかる喜びと学ぶ楽しさを実感できる授業づくり，指導方法や指導体制の工夫改善
- ・学習課題の提示，まとめや振り返りの徹底

#### ②基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

- ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着
- ・知識・技能の習得にあたっては，既習の学習内容との関連付けを重視し，実感を伴った理解となるようにする。ICT機器の積極的な活用
- ・観察・実験やレポートの作成，論述，発表会などを適宜取り入れる
- ・学習習慣の確立（家庭学習・自学自習へ）

### ③問題解決的な学習や探究活動の充実

- ・理科教育や総合的な学習の時間では、自然、社会、職場体験や生産活動などを取り入れ、課題や疑問点を設定し、調べ、探究するプロセスが繰り返されるようにする。
- ・子ども一人一人が互いの意見を深め合うなどの多様な学習形態を取り入れる。

### ④言語活動の充実

- ・それぞれの教科等の目標を実現するために、言語活動を位置づけ、記録、要約、説明、論述、発表、討論など充実させる。
- ・古典をはじめ、我が国の言語文化に触れて感性や情緒を育む指導の充実を図る。
- ・学校図書館を自ら学ぶ「学習・情報センター」、豊かな感性や情操を育む「読書センター」として活性化する。

### ⑤グローバル化時代における実践的な英語力の育成

- ・京都の素晴らしさや自らの考えを世界に発信できる英語力を育成するために、日常的に英語に触れる機会や環境を創り出す。
- ・英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。(イングリッシュシャワー)

### ⑥理数教育の充実

- ・理科においては、目的意識を持った観察・実験を行い、体験と実感を伴った理解を深めるとともに、科学的に調べる能力や態度、科学的な認識、見方、考え方を育成する
- ・算数的活動を充実させ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、数学的な思考力・表現力と学ぶ意欲を育成する。

### ⑦LD等支援の必要な子どもの学力向上

- ・個々の課題を明確にとらえ、行動面だけでなく、学力面への支援を充実させる。
- ・個別の指導計画を活用するとともに、読み書きに支援が必要な子どもについては、ICTの活用など、個別の有効な教材などを工夫し、支援を行う。

## (2)「豊かな心」の育成に向けて

### ①道徳教育の充実

- ・しなやかな道徳教育を実践する。
- ・道徳推進教師を中心に、校内研究と連携を図りながら、保護者・地域の人たちとより連携を深め、教育活動全体を通じて道徳教育を推進する。
- ・道徳の時間においては、ねらいを明確にし、子どもの内面に寄り添いながら、多様で効果的な指導方法を工夫する。
- ・児童会活動や集団活動などで主体的・自発的な活動を重視し、集団の一員としての責任を果たす中で、自己実現につなげる指導を進める。
- ・異年齢集団（縦割り活動等）での活動や児童会活動の充実を図り、自分を大切に、他人を思いやる心を育てる。

## ②豊かな感性・情操を育む教育の充実

- ・伝統文化に触れ、長い歴史や優れた知恵や技を受け継ぐことの大切さを知らせる。
- ・日本の食文化に触れ、食材や四季の移ろい、行事などを通して自らも伝統や文化を受け継いでいく担い手であることを実感できるようにする。

## ③規範意識の育成

- ・あいさつの励行、学習規律の指導、生活指導などを通して規範意識を高め、学びの集団としての質の向上を図る。
- ・「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめや暴力などを許さない集団づくりの推進や手遅れのない対応、毅然とした姿勢で指導し、人権意識を高めていけるようにする。
- ・携帯電話・スマートフォンの普及による急速な情報化が進むなか、教職員がその機能や危険性を理解し、子どもたちに正しい判断力を身に付けさせる。(情報モラル)

## ④支え合い高め合う集団づくりの推進と絆づくり

- ・子どもが互いの良さを見つけようと努力し、互いに協力し合える学級、集団作りを支援し、すべての子どもが安心して学校生活を送れるようにする。
- ・子どもがいじめ問題を自らの問題として考えていけるようにする。
- ・子どもの状況や学級実態を的確に把握できるようにスクールカウンセラーとの連携やクラスマネージメントシートの活用を進める。

# (3) 「健やかな体」の育成に向けて

## ①運動やスポーツの実践と体力の向上

- ・全ての子どもが運動・スポーツの楽しさや喜びを味わえる指導の充実をはかる。
- ・心と体を一体としてとらえた指導を行うことにより、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

## ②保健教育の充実

- ・家庭と連携して、食事、運動、休養、睡眠の調和の取れた生活習慣を身に付ける。  
(早寝・早起き・朝ごはん)
- ・子どもが、けがや病気の原因、予防法を正しく理解し、自分自身の健康を保持できるようにする。
- ・発達段階に応じたエイズ教育や性教育の充実
- ・飲酒・喫煙・薬物乱用の有害性や医薬品についての正しい知識を身に付けるようにする。

## ③食に関する指導の推進

- ・楽しい学校給食を通して、みんなと和やかに食べる喜びや楽しさを味わえるようにする。
- ・食に関わる人々と食物への感謝の心を育てる

- ・和食文化や地産地消を推進する。
- ・食物アレルギーへの適切な対応を進める。

#### ④安全教育の充実

- ・計画的な安全教育の推進を図る。(安全ノートの活用)
- ・危険や事故，事件を回避できる子どもを育てる。
- ・育友会，地域関係団体（自主防災・自治連合会・少年補導）との連携，パトロール
- ・危機管理マニュアルをもとに，それに基づいた研修や訓練を実施する。
- ・引き渡し訓練や連絡体制を確立する。

### 3 学校教育の柱（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を支える取組

#### ①人権教育の推進

- ・あらゆる差別を許さず，互いの人格を認め合い，尊重し合う心を育てる
- ・あらゆる人権問題解決への実践力を培うための研修の充実

#### ②保護者・地域との連携の推進（地域ぐるみの学校づくり）・学校評価の活用

- ・「学校評価」，「参観」「学校運営協議会」等を相互に連動させ情報発信を進めながら，学校運営をし，地域と積極的に連携し，開かれた学校作りを着実に推進する。

#### ③校種間連携の推進

- ・校種間の連携を推進する。(小中・小小・小大・保幼小)
- ・授業公開，情報交換，合同研修などに取り組む。



学校・家庭・地域との連携，参画による夢に向かう楽しい学校づくり